

## 表紙によせて

ベニドウダン (*Enkianthus cernuus* f. *rubens*) ツツジ科 ドウダンツツジ属

絵：角田葉子 (2011.5.14 果実カラ 2011.11.26 恵泉キャンパスにて)

ツツジ科ドウダンツツジ属の小低木。属名の *Enkianthus* はギリシア語で妊娠を意味する *enkyos* と、花を意味する *anthos* からなり、種小名の *cernuus* はうつむく、変種名の *rubens* は赤の意で、これらはいずれも、花の特徴に由来するものである。主に関西以西に分布するので、関東では目にする機会は少ないが、5月の開花期はもちろん、秋には真っ赤に紅葉するため、庭木や垣根にも利用されている。私自身、自生地での姿を見たことはないが、ドウダンツツジ類の中でも一際美しい種であると言えよう。

この記事を書くために色々調べていると、ベニドウダンはベニサラサドウダン (*Enkianthus campanulatus* var. *palibinii*) と間違われて扱われていることが多いことがわかった。しかし、ベニドウダンは花冠の先端が不規則に切れ込み、花序も長いことで容易に区別できる。同様に、基本種であるシロドウダン (*Enkianthus cernuus* f. *cernuus*) も、ネット検索すると、街路樹や垣根によく使われるドウダンツツジ (*E. perulatus*) が「シロドウダン」として登場していることが多かったが、こちらは花型も全く異なるので、区別は容易である。

園芸文化研究所所長 樋口幸男